
魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 最恐と謳われた剣士

怒レイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 最恐と謳われた剣士

【Nコード】

N2617Y

【作者名】

怒レイン

【あらすじ】

ヒマなので書いてみました。ヒマな方は読んでみてください。文才はゼロですが・・・

あと本編はホテル・アグスタから始まります。

誠にすいませんが、しばらく更新を停止します。

主人公設定

オリ主プロフィール

名前

偽名

ゼノン・グレイス

本名

・レイン

役職

管理局所属・大将

（偽名のときは三等空尉）

・大将だったが執務仕事は相棒に丸投げし現場での仕事しかない。
ゼノンが大将と知っているのは‘三提督’しか知らない。

魔法関係

・全て測定不能

好きなもの

・努力する人間・他人の為に自分の手を汚す人間・優しい人間

嫌いなもの

・ 欲を正義と騙る馬鹿・ 現実を見ない奴・ 他人の努力を掠め取る奴
性別や性格や容姿や人間性

・ 性別は男。 性格は優しいが闘いは別で負けず嫌い。 容姿は水色の髪で背中まで有りポニーテールでまとめていて目は青色をしている。 顔は女顔だが凛々しさを感じられる。 最強の剣士と謳われたときはレインだったのでレインの本当の实力は誰も知らない。

デバイスのプロフィール

・ ユニゾンデバイスで名前はアインス（前はリインフォースだった）。 消える運命だったが何らかの事故で消え無かったが夜天の書とのリンクが切れてしまい再度消えかけた時にゼノンに出会い契約しゼノンのユニゾンデバイスとなった。

刀（名前・傾国の剣）はアインスとユニゾンした時に出てくる。 別名『国を滅ぼす剣』や『主を狂わす剣』と言われている。

レアスキル

・ 魔力変換

雷・炎・風に魔力を変換でき、仲間の魔力も変換できる。

・ 無想モード

そこに居ない人間の力を汲み取り己の力に変換する。

技はあとで決めます。もしも見てくれた人がいたら、技やその効果を書いてください。もし書いて頂いた場合は戦闘時に採用させていただきます。

もし書いて頂いた場合は戦闘時に採用させていただきます。もし書いて頂いた場合は戦闘時に採用させていただきます。

よろしくお願いします（、ゝゞ

プロローグ（前書き）

プロローグです

ブローグ

ゼノン「ヒマだね」アインス「

アインス「そうですねマスター」

いや本当にヒマだね」

ゼノン「そうだ。出かけるか。キール元帥に許可貰ってしばらく留守にするか」

アインス「許可は取ってあります」

ゼノン「さすがアインス。仕事がはやいね」

アインス「それで何処に行くのですか？」

ゼノン「ん？機動六課だよ」

アインス「本当ですか!？」

ゼノン「ああ。キール元帥に頼むか」

通信中……

ゼノン「〜って訳をお願いします」

キール「リミッターをどのくらい下げるのかね？」

ゼノン「とりあえずAまで下げます」

キール「わかった。彼女達の事はくれぐれも頼むよ」

ゼノン「任せてください」

通信終了

アインス「準備終わりました。マスター」

ゼノン「じゃあ行こうか『機動六課』へ」

アインス「はい、マスター」

プロローグ（後書き）

ゼノンはとりあえずAまで下げますがリミッターは自分で外せます。
アインス（リインフォース）は魔力はSです。

ゼノンの年齢は17で体重は56?で身長は170?です。

ホテル・アグスタと自己紹介（前書き）

とりあえず一話です。

ホテル・アグスタと自己紹介

ゼノン「出向する前にミゼット幕議長から連絡が着て良かったよ」

アインス「そうですねマスター。もしかしたらしたら行き違いになっていたかも知れませんかね。」

本当だよ。さあ、行くぞって時に連絡が着たからな

アインス「しかし元主はやては無事でしょうか？」

それはわかんないが

ゼノン「なるようになるだろ。心配ならスピード上げるけど」

（ゼノンとアインスは現在空中にいます）

アインス「いえ。もう30秒経たずに着きますから。」

ゼノン「とりあえずユニゾンするか？」

アインス「そうですね」

「ユニゾン・イン」

さてと仕掛けますかね

アインス（あんまり暴れないでくださいねマスター）

ゼノン「……心得ておく。それより、そろそろ仕掛けるぞ」

アインス「分かりましたマスター」

ドンパチに乱入するのは結構楽しいからな

ゼノン「ククッ」

アインス「どうしましたかマスター？」

ゼノン「なに、ガジェットがどのくらい脆いか想像しただけだ」

アインス（可哀相に。すぐに鉄屑になりますね）

はあとアインスがため息をしているが関係ない。

ゼノン「さて、一暴れするか！風牙特攻！」

ビュンッ…ドドドドーン！！

ゼノン「弱いな」

アインス「既に15機の破壊を確認しています」

「てめえ何物だ！？」

ゼノン「ふむ？貴女は？」

「アタシはヴィータだ。お前は？」

ドカーン

ゼノン「自分はゼノン・グレイス三等空尉です！今日から機動六課でお世話になります！」

バキヤツ

アインス（…マスター演技…上手ですね）

ヴィータ「…そうか。アタシはスターズの副隊長だが階級は同じだから敬語じゃ無くていいぞ」

ドカーン

ゼノン「わかったよヴィータ」

ドカーン

『スターズ2へこちらロングアーチ。敵の反応全機ロストを確認。任務終了したから戻ってきてください』

ヴィータ「スターズ2了解。と行くぞゼノン」

ゼノン「ああ」

しばらくして

「ヴィータお帰…り。リイン…フォー…ス？」

ヴィータ「違うぞはやて。今日から仲間になるゼノン・グレイスだ」

ゼノン「初めましてゼノン・グレイス三等空尉であります！」

はやて「機動六課・部隊長の八神はやてです。よろしく願います。…あとお願いがあるんですけど、少しの間抱きしめて貰えますか？昔の家族に似ているので」

ゼノン「もしかしてリインフォースか？」

「！何故貴様がリインフォースを知っている！？」

はやて「まちいやシグナム！…で何でリインフォースを知っているやゼノンさん？」

ゼノン「はゝあ。アインス、ユニゾン・アウト」

アインス（ユニゾン・アウト）

はやて「う…そ？リインフォース？」

アインス「お久しぶりです。元主はやて」

はやて「リインフォース生きてたんやな」

アインス「はい。今のマスターと契約を交わしていますが。」

はやて「ゼノンさんって女？」

ゼノン「俺は男だ!!」

「『……………ええええええ!!?』」

「嘘でしょ! リンフォースさんと瓜二つなの」

「目や胸が同じならリンフォースが二人になる」

「リンの大人バージョンみたいですぅ」

ゼノン「とりあえず六課にいきませんか?」

はやて「そうやな。みんな帰るで」

「『はい!』」

「……………」

あの子危ないな。力を履き違えてるな。

1時間後…六課

ゼノン「改めて自己紹介します。ゼノン・グレイス三等空尉です」

アインス「マスターのユニゾンデバイスのアインスだ」

はやて「どうも。機動六課・部隊長の八神はやて二佐です。よろしくな」。とりあえずスターズの隊長達から自己紹介してや」

なのは「分かったなの。初めまして、スターズ分隊長の高町なのは

一等空尉です。よろしくお願いします」

ヴィータ「さっきも言ったがスターズ副分隊長のヴィータだよ
し
くな」

はやて「次はライトニングや」

フェイト「初めましてライトニング分隊長のフェイト・T・ハラオ
ウン執務官です。よろしくお願いします」

シグナム「ふむ。ライトニング副分隊長のシグナムだ。よろしく頼
む」

リイン「次はフォワード達ですう」

ティアナ「……ティアナ・ランスター二等陸士です。……よろしく
お願いします」

ティアナに

スバル「…スバル・ナカジマ二等陸士です…。…よろしく願
い
します」

スバルに

エリオ「エリオ・モンディアル三等陸士です。よろしく願
い
します」

エリオに

キャロ「キャロ・ル・ルシエ三等陸士です。よろしくお願いします」

キャロね

ゼノン「よろしくな四人とも」

はやて「あとはロングアーチだけやね」

リイン「リインはリインフォース・ツヴァイ曹長ですう。よろしくですう」

リインに

シャリオ「シャリオ・フィニーノ一等陸士です。通称「シャーリー」です。それとデバイスマイスターの資格も持っています。よろしくお願いします」

シャーリーに

ザフィーラ、シャマル、グリフィス、ヴァイス、アルト、ルキノと
続き

レイン「レイン・エルターナ三等空尉だ。よろしく頼む」

ゼノン「こちらこそよろしくお願いします。」

はやて「じゃあ質問タイムや！気になった事とか質問しいや」

なのは「はい。リインフォースさんとは何処で出会ったの？」

ゼノン「アインスとは任務の帰りに消えかった状態で出会った」

フェイト「元帥とは何処で出会ったの？」

アインス「キール元帥から直接の依頼があつたときだ」

エリオ「何でそんなにアインスさんとゼノンは似ているのですか？」

ゼノン「分かん」

はやて「じゃあ質問タイム終了や。明日も訓練あるし早く休み」

「「はい！」」

「「…はい！」」

ホテル・アグスタと自己紹介（後書き）

・風牙特攻

文字通り風の牙となり特攻を仕掛ける。通り抜けたとき周りのものは風の牙で破壊される。

オリキャラ紹介

レイン・エルターナ

魔力関係はオールS（普段はA）

優しいが天然。やるときは徹底的にやる。

ティアナの気持ち

自己紹介の後

はやて「ゼノンくん。悪いんやけど男子寮の部屋が空いてないから女子寮でええか？」

ゼノン「大丈夫ですよ。それにアインスとよく寝てたし」

「『なっ！？』」

「『？？？』」

寝るの意味…誤解されてるな。それと驚いている奴らの意味がわかってない奴か

ゼノン「安心してください。変な意味は無いですから」

はやて「間際らしい事言っくなや！！」

スバル「はやて部隊長。間際らしい事ってなんですか？」

なのは「スバルは知らなくていいの！！」

レイン「知らないの？隊長達が思ったのは『わーわー！！』」

フェイト「説明しなくていいから！！」

はやて「はい、もう明日も早いし解散！！」

「『はい!』」

しばらくして（自分の部屋まで飛ばします）

ゼノン「此処の部屋みたいだな」

アインス「そうみたいですなマスター」

ゼノン「アインスはもう寝てていいよ。俺もシャワーを浴びたら寝るから」

アインス「分かりましたマスター。お休みなさい」

ゼノン「ああ、お休みアインス」

シャワー中

シャーーッ

ゼノン（初対面だったがティアナを見たとき、明らかに生き急いでるなと感じたが・・・明日の朝にでも観察して観るか）↑直感

次の日

ゼノン「（はあくあ。やっぱりか）」

ティアナは今自主練中

ティアナ「はあ…はあ…。」

ゼノン「（声かけるか）ティアナー。」

ティアナ「！？ゼノンさん？」

ゼノン「おうっ！朝から自主練か？なのは隊長の訓練の体力は残しておけよ。」

ティアナ「大丈夫です。…それに私は凡人ですから。」

ゼノン「凡人って何故だ？」

ティアナ「私はエリオ達みたいにレアスキルは無いし、なのは隊長達みたいに魔力が多いわけでも無いですから。」

ゼノン「…ティアナ。別にレアスキルがあるから強いって訳でもないし、魔力が多いから強いって訳でもないぞ。レアスキルなんて使いこなせなきゃ意味はないぞ。魔力だって使いこなせなきゃ暴発するし。俺はレアスキルや魔力より頭がキレル奴が一番怖いけどな」

ティアナ「何ですか？」

ゼノン「頭がキレル奴は作戦をたてれるし、その場面に適した指示が出せる。ティアナはセンターガードだから適切な事は教えられないが、ティアナが凡人じゃない事は分かっているよ。」

ティアナ「ありがとうございます。」

ゼノン「それとアグスタの事を思い出して、あの場面は無理をする

場面なのか考え直してみてよ。」

ティアナ「はい。」

ゼノン「分かったのならいい。そろそろ時間だから行った方がいいぞ」

ティアナ「え？」

ゼノン「今は、5時45分だ。訓練は6時からだぞ」

ティアナ「本当ですか！？ゼノンさん失礼します！」

ゼノン「頑張れよう！」

魔王光臨（前書き）

レイン・エルターナは主人公と被るので『レイン・E』とします。

魔王光臨

ティアナとの話から数日後の模擬戦

フェイト「あ、もう模擬戦始まっちゃってる?。」

アインス「遅刻かテストロッサ」

フェイト「仕事が溜まってて」

アインス「まあここでみてろ」

フェイト「実は、私も手伝おうと思ってただけど…」

ゼノン「今はスターズの番」

フェイト「本当は、スターズの模擬戦も私が引き受けようと思ってただけどね……」

ヴィータ「ああ。なのはこここのところ訓練密度濃いからな。少し休ませないと……」

フェイト「なのは、部屋に戻ってもモニターにむかいつぱなしなんだよ。訓練メニュー考えたり、ビデオでみんなの陣形チェックしたりして」

エリオ「なのはさん。訓練中もいつも僕らのこと見ててくれるんですよね!。」

キャロ「本当にずっと……」

レイン「ゼノンさん」

ゼノン「ああ。この模擬戦、高町がキレるかもな」

しばらくして

ティアナ「クロスファイヤー……シュート……!」

ヴィータ「ん?…キレがよくねえな」

レイン「コントロールは、いいみたいですけど」

フェイト「それにしたって」

ゼノン「らしくないな」

アインス「ですね……」

本来ならあのクロスファイヤーは専用だろう。(アグスタでスバルに当てそうになったから) コントロール重視で狙った位置に導くのが狙いだろう……。でも直感があればフェイクじゃないと言える。

なのは「!?!」

ヴィータ「フェイクじゃねえ!!」

レイン「本物です!!」

それから、模擬戦は続き

ティアナ「《特訓の成果。クロスシフトC……。行くわよ、スバル
！！》」

スバル「おうっ！！」

スバルはカートリッジを二発ロードし、なのはに突撃をかけた。

なのはもシールドで防ぐが、それが二人の狙い。

なのはは、弾き返すことができず、砲撃体制に入っていたティアナ
の方に視線を向けた。

なのは「！？」

キャラ「あっちのティアナさんは幻影」

エリオ「一体、本物は？」

ティアナはその間にクロスミラーージュのトリガーを引き、カートリ
ッジを二発ロードさせ、魔力刀を作り、ウイングロードを駆け上が
っていく。

ゼノン「チッ…バカティアナ。前に言った事を忘れやがって！……
瞬歩（ボソッ）」

シュンッ！

ティアナ「（一撃必殺！）はああああ！！！」

なのは「レイジグハート・モード、リリース」

ゼノン「（守式一式）桜（ボソツ）」

三人のまで爆発が起こった。

その衝撃波が観戦をしているところにもきた。

フェイト「なのは！！！」

エリオ「結果は！？」

なのは「どうして邪魔をするのかな？」

スバル「・・・え？」

ティアナ「・・・ゼノンさん」

アインス「マスター！？！」

フェイト「いつの間に・・・」

レイン・E「すごいですね」

エリオ「気づきませんでした」

ゼノン「これ以上の模擬戦は大将権限により禁止する!!」

スバル「…大…」

ティアナ「…将？」

なのは「…何を言っているのかな？ゼノンくん」

ゼノン「あとで説明する」

フェイト「大将？」

エリオ「ゼノンさんが？」

キャロ「…うそ…」

レイン・E「まさか」

ゼノン「とりあえず全員部隊長室に行け！反論は認めん!!」

しばらくして部隊長室

魔王光臨（後書き）

ゼノンが大将と知っているのは将官と提督にします。三提督だけでは少ないので。あと、傾国の剣はユニゾン無しでも使える事にしました。

本性と和解

前回の続き

部隊長室

はやて「ほな、説明して貰えますか？」

アインス以外の全員が首を縦に振る。

ゼノン「分かった。クロノかリンディさんかカリムにでも繋いでくれ」

ピピピ

シャツハ「こちら聖王協会です」

はやて「シャツハ悪いんやけどカリムに繋いで貰えるか？」

シャツハ「分かりました騎士はやてしばらくお待ちください」

しばらくして

カリム「お久しぶりねはやて。それでどうしたの急に連絡なんてして」

はやて「そのな」

ゼノン「久しぶりだな騎士カリム」

カリム「！お久しぶりですねゼノン大将」

ゼノン「あゝ。カリム？別にいつも通りでいいぞ？」

カリム「そう、良かったわ。で、は yet は何の用なのかしら？」

は yet 「いや、もう知りたい事は分かったからもうええ」

カリム「そう？」

ゼノン「最初にキール元帥に三等空尉と名のつとけと言われてたが模擬戦が危険だったから大将権限で止めた」

カリム「そうゆう事ね。確かにゼノンさんは大将で間違いないわよ。
『騎士カリム』あ！お客さんが来たから通信切るわね」

ブチッ

は yet 「ほんまやったんや・・・」

フェイト「私より年下なのに・・・」

なのは「大将・・・」

スバル「すごいですね！ゼノン大将！」

ゼノン「別にいつも通りでいいぞ」

エリオ「じゃあゼノンさんは何時から大将に？」

ブーブー

エリオが質問をしたときにガジェットが出現したとの報告がきた

ゼノン「ガジェットが出たが明らかに撃ち落としてくださいと言う風だが、どうする？」

はやて「新しい力を見せるのは愚策やしな」

フェイト「そうなると」

なのは「何時も通りになるね！」

ゼノン「今回は俺とフェイト隊長でガジェットを叩きます。なのは隊長はティアナに訓練の意味を教えてください。」

フェイト「分かったよ」

なのは「・・・分かったなの」

はやて「じゃあ頼むで」

しばらくして、海上

ゼノン「フェイト。まずは俺が攻撃するから零れた奴を潰してくれ。」

フェイト「え？」

ゼノン「我が呼び声に応えよ『傾国の剣！』」

ギーーーーン！……！！

ドドドドーーーーンンンン！……！！

フェイト「・・・凄い」

ピピピッ

ロングアーチ「こちらロングアーチ。敵の反応全てロスト。帰還してください。」

フェイト「ライティング1、了解！」

ブチッ

フェイト「戻りますよゼノンさん」

ゼノン「はあ…はあ…分かった。」

フェイト「だ、大丈夫ですか!？」

ゼノン「ユニゾン無しだ…はあ…と少しきついな」

フェイト「早く戻って休んでください!」

ゼノン「ああ。」

??? サイド

?「観たかいウーノ!私の作品が一撃で全滅だよ!!」

ウーノ「はい。ですが」

?「分かっているよウーノ。彼がこちら側だったら私の計画はより良く進めのだかね・・・」

ウーノ「とりあえず、今のところの一番の障害ですね」

?「トーレ達に伝えといてくれるかい?」

ウーノ「分かりました。ドクター」

??? サイドOut

機動六課

ゼノン「ただいま」

アインス「お帰りなさいマスター。」

フェイト「ただいま。」

なのは「お帰りなさいフェイトちゃん」

ゼノン「それで訓練の意味は説明したのか？」

なのは「したよ。ティアナは意味をちゃんと理解してくれたよ。」

フェイト「よかったね。なのは」

なのは「うん！」

後日、訓練の意味を理解したティアナの動きは、個人・チーム戦ともに格段に良くなった。

レジアスと対談

ティアナとなのはの和解から数日

ゼノン「アインス！地上本部に行くぞ」

アインス「・・・随分と急ですね」

ゼノン「今の内にレジアスを引き込む為だ」

ちなみに今は個室にいます

アインス「はやてには許可をとってあるのですか？」

ゼノン「有給休暇を消費しないといけないからな。キール爺さんからの強制休暇」

アインス「その休暇を使ってレジアスを引き込む…と」

ゼノン「可能ならスカリエッティも取り込む」

アインス「な！？スカリエッティも！！？」

ゼノン「奴も被害者だからな。管理局の膿の」

アインス「分かりました」

ゼノン「まあ、先ずはレジアスからだ。」

アインス「はい」

地上本部

ゼノン「だから、レジアスを出してくれって言っているだろー!」

「先程から申しているようにレジアス中將は忙しいのです。」

ゼノン「あゝもー! 拉致があかねえー!! レジアスにゼノン・グレイスが来たと伝えてくれ」

「分かりました。」

ピピピッ

「お忙しいところすいません。」

『どうした?』

「レジアス中將にゼノン・グレイスが来たと伝えてくれと頼まれたので連絡をしたのですが・・・」

『大將が!? 分かった! 儂の部屋に案内してくれ!』

「わ、分かりました。」

ブチッ

「分かりました。案内します」

ゼノン「頼むぜ」

レジアスの執務室

「こちらです」

ゼノン「ありがとうな」

「いえ、それでは失礼します」

アインス「早く入りましょうマスター」

ゼノン「ああ。」

コンコン

「入ってください」

ガチャ

ゼノン「よう。レジアス中将」

レジアス「お久しぶりですゼノン大将。」

アインス「お久しぶりですねレジアス中将」

レジアス「アインス大将補佐まで」

ゼノン「そんな事より人払い頼めるか？」

レジアス「分かった。オーリス頼む」

オーリス「はい。分かりました」

レジアス「それで話は？」

ゼノン「まあ待て。居るんだろレイン・Eいやスカリエッティのスパイさん？」

レイン・E「あら何時から気づいていたのかしら？」

ゼノン「夜な夜なお前が情報をスカリエッティに送っているときから？」

レイン・E「初めっからね。まあいいわ。私はドゥーエよ」

レジアス「なっ！？」

ゼノン「じゃあスカリエッティに後で会いに行くと伝えてくれ。君

とレジアスとオーリスには話しておく。」

アインス「その前にレジアス中將は今の管理局をどうみますか？」

レジアス「今の管理局の上層部は違法研究や私腹を肥やすばかりで民間人の事を考えない奴ばかりだ！！（ドンッ）」

ゼノン「ふつ。なら俺の計画に協力しろ。」

レジアス「計画とは？」

ゼノン「上層部の膿や最高議会や下の膿を消す計画」

アインス「簡単に言えば管理局の膿を取り除く事です。既に三提督はこちら側です。」

レジアス「なっ！？」

オーリス「えっ！？」

ドゥーエ「できるの！？」

ゼノン「出来ないじゃ無い。やるのさ。ゼスト部隊を影で潰したのやスカリエッティを犯罪に追い込んだのは最高議会や上層部だ。」

レジアス「俺の友の部隊を潰したのが上層部や最高議会・・・」

オーリス「なんて事を・・・」

アインス「それに調べた結果、スカリエッティは脅されて違法研究

をしていたそうです」

ドゥーエ「ドクターが脅された・・・」

しばらくして

レジアス「よし！決めた！！儂も大将に協力しよう！」

オーリス「私もです！」

ドゥーエ「とりあえずドクターに連絡してみるわ！」

ゼノン「最後に良いことを教えてやる」

レジアス「なんじゃ？」

ゼノン「一つ目はゼスト部隊が生きている事。」

レジアス「！本当か！？本当にゼストが生きているのか！？」

ゼノン「ああ。本当だ」

レジアス「そ、そうか。はあゝよかった！」

オーリス「よかったですね中将」

ドゥーエ「二つ目は？」

ゼノン「俺の計画はスカリエッツィが参加すれば百パーセント成功する。あと、レジアス」

レジアス「どうした？」

ゼノン「改めて名前を言う俺の名前はレインだ」

ドゥーエ「ちょっと待って！レインってまさか？剣一本で艦隊を沈めたあの？」

レイン「よく知っているな」

レジアス「待て！なら儂を味方に付けなくても」

レイン「膿を消したあとにまとめ役に適任なのがレジアスだからだ。」

アインス「性格にはまとめるのが面倒なだけでは？」

レイン「そうとも言つ」

レジアス「そうとにか思わん！！」

レイン「まあ積もる程の話があるがそれはまたの機会にしよう」

レジアス「ああ」

レイン「じゃあなレジアス」

レジアス「ああ」

レジアスとの対談後、ドゥーエと別れた後

アインス「これで理想にかなり近付きましたね」

レイン「ああ。あとはスカリエッツィ次第だな」

スカリエッツィとの対談

レジアス中将との対談の次の日

ジェイル「やあ！君がレイン君かい？」

現在進行形でスカリエッツィの秘密基地にいます。

レイン「ああ、そうだスカリエッツィ。となりの」

ジェイル「彼女ならウーノと喋っているよ」

レイン「それで話なんだが」

ジェイル「分かっているよ。とりあえず椅子に腰を掛けてくれ」

レイン「分かった。………で話なんだが」

ジェイル「ドゥーエから話は聞いてるよ。………で、何故僕を味方にするんだい？」

レイン「愚問だな。最高評議会に脅されていたらどう？」

ジェイル「！？…よく知っているね」

レイン「これでも大将だからな」

ジェイル「大将なのに管理局を裏切っているのかい？」

レイン「裏切る予定じゃなかったら、ゼスト部隊を助けたり、闇を
知ろうとして消される寸前の奴を助けたりしないさ」

ジェイル「そうかい？……ちょっと待ってくれ。ゼスト部隊はルー
テシアの母親は居るのかい？」

レイン「居るよ。それにスカリエッティにこれ以上手を汚させたく
ないしな」

ジェイル「分かった協力しよう。計画が成功すれば本当に僕は家族
達と平和に暮らせるのかい？」

レイン「我が命を賭けて約束しよう」

ジェイル「ありがとう。ジェイルでいいよ」

レイン「ああ。じゃあなジェイル」

ジェイル「うん。レイン」

スカリエッティとの対談後

スカリエッティ達

ウーノ「凄い人達でしたね」

ジェイル「そうだね。そういえば彼女とは仲良くなったのかい？」

ウーノ「はい」

ジェイル「それは良かった。」

スカリエツティ側End

レイン側

レイン「ジェイルを味方に出来たし後は六課と108部隊だけだな」

アインス「そうですね。ウーノとも仲良くなれたし良かったです」

レイン「本当だな」

技説明

とりあえず今までの技を説明します

一つ目

・風牙特攻

・風の牙となり敵を斬りつける。肉眼で確認出来ないので気づいたら死んでいるや壊されているとなる。突破力は高く貫通していく事もある。しかし、常人がやると一分も持たない。

二つ目

・我が呼び声に応えよ『傾国の剣』

・傾国の剣の封印を解き放ち、魔力の斬撃を飛ばす。有効範囲は二キロで横一文字の斬撃である。

三つ目

・守式一式『桜』

・この技は剣の届く範囲が有効範囲で剣が届く範囲は絶対防御となる。

四つ目

・瞬歩

・一瞬の内に移動する。十キロを過ぎると使えなくなる。常人がやるとスタミナを激しく消費する。

以上で今まで出てきた技の説明を終了します

番外編1前編

ある日の医療室

はやて「シャマル」。頼んどいた薬は出来たか？」

シャマル「ええ。出来てるわよはやてちゃん」

はやて「後はこの薬をゼノンさんに飲ませれば」

シャマル「そうね。粉々にして料理に混ぜればいいわ。」

はやて「クツクツクツ、シャマルも悪よのお」

シャマル「いえいえ、はやてちゃんには敵いません。フッフッフ」

つと、医療室から笑い声が途切れませんでした。

次の日

ゼノン「何だこれは？」

朝きたらデスクに濁った毒ぶち…虹色に濁った液体があった

はやて「ゼノンさん疲れてると思ったから栄養ドリンクや」

ゼノン「なん…だ…と…！？このきしよい液体が栄養ドリンクだと

!？」

シャル「きしよいとは失礼です。作るのに苦労したんですよ？」

ゼノン「こ、これを飲めと？」

はやて「せっかくシャルが作ってくれたんや飲め！」

命令!？」

ゼノン「わ、わわわかりました。（パカッ）」

『ぎよえええええ!!死ぬううう!!!!』

パカッ

はやて「（ニコニコッ）」

シャル「（ニコニコッ）」

え!?!この悲鳴を上げたのを飲めと!!!?

パカッ

『助けアゲボゲ!WJGADTL.....つぎやあああああああ
ああ!!!!!!』

パカッ

はやて「（ニコニコッ）早う飲みや」

シャル「（ニコニコッ）そうですよ」

こうなったら…

ゼノン「南無三！（ゴクッ）」

見た目に反して味はなかなか…痛い！！口の中を嚙んだぞ！？しかも飲み込め無い！！？

ゼノン「無い…と思う…がこの…ドリンク…試した…か？」

シャル「……………テヘッ」

はやて「試して無いんかい！！！」

はやてが騒いでるがシャルの奴起きたら覚えて…ろ

バタッ

数時間後

アインス「シャル、マスターを知らないか？」

シャル「…ベットで寝てるわよ」

アインス「で、そのたんこぶは？」

シャル「ゼノンさんに栄養ドリンクの実験の為に上げたら倒れて怒られた」

アインス「なっ！？マスターは無事なのか！！？」

はやて「落ち着き！とりあえずベットに寝かせてるよ」

アインス「マスター」

アインスがゼノンが寝ているベットに行く

ゼノン？「ふわあ。誰？」

アインス「マスターー！！？」

ゼノン？は子供になっており、アインスの絶叫が六課全体に響いた

番外編 1・後編

アインスの絶叫で隊長陣やフォワード陣が駆け付けた

なのは「はやてちゃん、シャマルさん何か言う事は？」

「「ごめんなさい」」

フェイト「ゼノンさん今の年齢は？」

ゼノン「10」

エリオ「……可愛い」

キャロ「エリオくんって……」

今のレイン（ゼノン）の容姿はリインフォース・ツヴァイがポニーテールにした形。身長はエリオより五センチ低いくらいで女の子にしか見えない顔だった

はやて「なあ、ゼノンくん？抱かせ『いやっ！』……」

ゼノン「ママと一緒にいる」

ぎゅう

アインス「マスター。分かりました。マスターが直るまで私がお母さんになります！」

ゼノン「えへへ、ママ」

・・・ネタがつきた

て、事で番外編は打ち切りに『させるかあー！！！』ぐはあああああああ！！！？

ゼノン「ママ帰る」

アインス「ああ、そうだな」

その日の夜

ゼノン「ママ、一緒に寝よ」

アインス「（小さいマスター、小さいマスター、小さいマスター、ハアハア）ああ。いいぞ」

ゼノン「やたー！！」

こうしてゼノンにとっての黒歴史が誕生しました

番外編 1・後編（後書き）

途中で面倒になったし、ネタを忘れた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2617y/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS～最恐と謳われた剣士

2011年11月15日18時13分発行